

2021 年度 第 2 回 土木学会 原子力土木委員会 規格情報小委員会 議事録(案)

1. 日時:2022 年 3 月 11 日(金)10:00～12:00
2. オンライン(Zoom)開催
3. 出席者
 (委員および委員兼幹事):中村, 蛭沢, 吉田, 河井, 中瀬, 阿部, 内藤
 (幹事):篠田, 中島, 酒井
 (オブザーバー):宮川, 松山, 石丸, 松村, 西坂

敬称略

配付資料

資料番号	資料
資料 2-1	これまでの経緯
資料 2-2	前回議事録
資料 2-3	原子力土木委員会の活動方針案(概要版)
資料 2-4	活動方針(案)に対する意見の回答の要約
資料 2-5	活動方針(案)に関する意見と回答
資料 2-6	原子力土木委員会構成見直し(案)
資料 2-7	「原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析」に関する WG の設置
資料 2-8	年間スケジュール

4. 議題(説明者)

- | | |
|--|--------|
| 1) 委員長挨拶(中村) | 資料 2-1 |
| 2) 2021 年度第 1 回規格情報小委員会議事録(案)(篠田) | 資料 2-2 |
| 3) 原子力土木委員会の活動方針案(中村) | 資料 2-3 |
| 4) 活動方針(案)に対する意見の回答の要約(中村) | 資料 2-4 |
| 5) 活動方針(案)に関する意見と回答(中村) | 資料 2-5 |
| 6) 原子力土木委員会構成見直し(案)(中村) | 資料 2-6 |
| 7) 地震時における斜面の包括的な安全性評価ガイドライン WG の活動報告(大鳥) | |
| 8) 「原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析」に関する WG の設置(中村) | 資料 2-7 |
| 9) 年間スケジュール(篠田) | 資料 2-8 |

5. 議事録

1) 中村委員長の挨拶

中村委員長から、資料 2-1 により、これまでの経緯について説明があった。「前回の規格情報小委員会から半年ほど経っており、様々な状況が変化した。2021 年 12 月 22 日に原子力土木委員会にて、活動方針(案)の説明を行った後、原子力土木委員会の委員から様々なご意見をいただいた。2022 年 2 月 18 日に原子力土木委員会幹事会が開催され、委員会から頂いた意見に対する回答案を提示して、意見交換を実施した。さらに、2022 年 2 月 10 日に規格情報小委員会幹事会を開催して、さらなる検討を実施した。」とのことであった。

2) 2021 年度第 1 回規格情報小委員会議事録(案)について

資料配付されたが、時間の制約上、説明は割愛した。

3) 原子力土木委員会の活動方針案、活動方針(案)に対する意見の回答の要約、原子力土木委員会構成見直し(案)について

中村委員長から、資料 2-3～資料 2-6 により、原子力土木委員会の活動方針案、活動方針(案)に対する意見の回答の要約、原子力土木委員会構成見直し(案)について説明があった。内容について、以下の質疑・コメントがあった。

C: 方向性に賛成である。タスクではなく親委員会を増員するのも一つの方法だと思う。また、委託小委員会の委員構成については、職域比率の設定などがなされていると思うので事実関係を「方針の基本」のなかの「現状」の個所に記載すると正確性が増すと思う(松村オブザーバー)。

Q: 親委員会を増員するのも一つの方向だと思う。土木学会内の他の委員会における委託委員会の成果審議プロセスや委員構成、ルールなどを事実関係として把握しておくとういと思う(松村オブザーバー)。

A: 土木学会コンクリート委員会においても、常任委員会があり、委託委員会で検討した内容を常任委員会で審議を行っている(中村委員長)。

C: 小委員会とWGを分けた際の委員構成が前回の案では懸念であったが、今回の最終案は、その懸念事項が払拭されたと感じている(宮川オブザーバー)。

Q: 良い案だと思う。職域比率について、委託小委員会の職域比率は残るのか(石丸オブザーバー)?

参考: 学会が受託する研究を実施する小委員会の委員構成も、同じく土木学会の公益性に鑑み、委託側比率を 1/3 以下とすることを目安とする。委託側の定義は、①委託機関、②委

託機関から小委員会で取り扱う研究を直接受託する機関、③委託機関に小委員会で取り扱う研究を直接委託する機関、とする(原子力土木委員会運営内規より抜粋)。

A: 審議のプロセスが委託と分離していることが重要である(中村委員長)。

Q: 構成見直し案では審議のプロセスが別になっているので、委託小委員会の職域比率をなくしてもよいのではないか(石丸オブザーバー)？

A: 利益相反の問題があるので、全て撤廃するのは問題となる。現状の範囲内でのよいと思う(中村委員長)。

C: 常設小委員会と委託 WG を分離するのが前回の案であったが、結局は社会のニーズにつながる委託元のニーズ(委託した技術課題への工学的な対応の検討)に応えられるのかが不安であったが、今回の案であれば、委託小委員会が残ることになり、委託元のニーズに応えられると思う。今回の案に賛成である(西坂オブザーバー)。

C: 様々な意見に対して合理的に対応されており、良い案だと思う(河井委員)。

4) 地震時における斜面の包括的な安全性評価ガイドライン WG の活動報告について
大鳥主査から、地震時における斜面の包括的な安全性評価ガイドライン WG の活動状況について報告があった。

- 第1回の WG を 2022 年 1 月 21 日に開催した。
- 議題として、エイト日本技術開発・末富様に「地震被害想定と防災計画ー国内自治体における実施手法ー」について話題提供があった。
- 原子力土木構造物の包括的な安全性評価に関する原則について、中村委員長のご意見を聞きながら議論した。様々な意見が出されたが次の3つに分けられる。
 - ① Scope に関する意見(包括的の範囲, 委員構成, 扱う範囲)
 - ② 他の安全性に関する考えの整合(危機耐性, 設計を超過する安全性への考え方)
 - ③ 技術的な内容(Core damage frequency, PRA)
- 上記を踏まえた議論を深め、方針を明確した時点で WG から小委員会としての活動について検討したい。

5) 「原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析」に関する WG 設置について
蛭沢委員から、資料 2-7 により、「原子力防災の現状分析と土木分野の果たす役割の整理分析」に関する WG 設置について説明があった。内容について、以下の質疑・コメントがあった。

C: 避難等についての課題に着目し、それを解決するために必要な対応策について、土木工学

の役割、分野連携として工学的に取り組むべき事項を明確にすることが重要と思う。まず、具体的な課題を掘り下げ、整理するとともに関係機関で情報を共有していくことが重要である(中村委員長)。

Q: WG3については、課題を抽出するために様々な委員が参画することになるが、WG2とWG3の委員構成が異なることから、WG2とWG3を分けて検討を進めてはどうか(中村委員長)。

A: まずは分けて議論して、必要に応じて合同で議論すればよいと思う(大鳥副委員長)。

Q: 原子力土木委員会の構成員は、原子力推進の方ばかりだが、原子力に慎重な方も参画されたほうがよいのではという意見がある。訴訟の原告の方から直接話を聞く計画はあるのか(酒井幹事)。

A: 関連する方々にヒアリング、講演してもらうことを考えている。リスクコミュニケーション小委員会では、反対派の意見を聞くことを前提に活動している。今後の進め方については議論する必要がある(蛭沢委員)。

C: 訴訟の原告へヒアリングについては慎重に考えるべきと思う。原子力土木委員会がまだ中立的と幅広く認識されていないと思う(松村オブザーバー)。

Q: 「土木工学の役割、分野連携として工学的に取り組むべき内容」とは具体的に何か(松村オブザーバー)

A: 主として対象となるのは、「避難」の問題となる。外的事象により避難しなければならない状況が生じた場合、広い領域でインフラの状況を踏まえた避難者輸送などに係る交通の問題が重要となる(中村委員長)。

A: 屋内や屋外への避難については、省庁をまたぐ事象となる。包括的に対応できるのが、土木分野の技術者であると思う(蛭沢委員)。

C: 具体的な着地点が見えない。最低限の着地点は何か(吉田委員)？

A: 重要な課題は避難となる(中村委員長)。

Q: 防災について、地方自治体で実効性のある防災計画や避難計画の策定を行う。コアメンバーにも自治体から参加したほうがよいと思う(西坂オブザーバー)。

A: 福島県の防災計画の見直しにも委員として参画している。十分配慮して検討を実施したい(中村委員長)。

Q: 当面、WG2のままで検討を継続することとして、タイトルの見直しを検討してもらいたい(中村委員長)。

A: 了解した(大鳥副委員長).

Q: 原子力防災に関する WG を設置することについてお認めいただくことでよいか(中村委員長).

A: 異議無し(全員).

6) 年間スケジュールについて

篠田幹事長から, 資料 2-8 により説明があった. 特に質問・コメントはなかった.

以上